

タイトル	多様な違いをつなぐ「工夫」
名称（学校・地域）	長野県稲荷山養護学校
日時・場所等	※必要がある場合は記載
ホームページアドレス	https://www.nagano-c.ed.jp/inavou/

地域の小学校との交流及び共同学習

本校小学部では、地域の小学校と年に1～2回の学校間交流をしています。お互いがもつ様々な違いをつなぐために、「工夫」し合うことで、それぞれが楽しめる活動になり、みんなが、つながる喜びを感じる交流となります。つながる喜びが得られる「工夫」を紹介します。

【肢体不自由のある本校児童と小学校児童との交流の例】



- 肢体不自由のある児童の場合、ルールが多少複雑でもお互いに理解できることが多いため、どの部位が動きづらいのかということに配慮して活動を工夫します。距離の配分をチームで話し合っ決めて、それぞれの児童が得意な進み方で進むハンディキャップリレーの他、カードゲームや〇×クイズなどで交流しました。

【知的障がいのある本校児童と小学校児童との交流の例】



- ルールはできるだけ簡単で、音や動きなど感覚的に楽しめる活動や、直感的に楽しさや達成感を感じられる活動を行います。パラハルーンでは、曲に合わせて回ったり、パラシュートのように膨らませたりして楽しみました。その他に、大玉ころがし、〇〇運びリレー、ペットボトルボウリングなどで交流しました。

【重複障がいのある本校児童と小学校児童との交流の例】



- 本校児童の動きが微細であるので、活動に制限がありますが、スイッチで動き出すおもちゃがあれば、小学校児童とも一緒に楽しめます。おもちゃの「バッティングマシーン」の回路内にスイッチ操作を挟み込む改造をすることで遠隔操作が可能になり、出てくるボールでの当てゲームができます。その他にも、シャボン玉マシーンにつないで楽しみました。

このように、特別支援学校にある教材が子どもたちをつなぐ工夫として生きることもありますし、小学校の児童が経験したことのある活動にちょっとした工夫をすることで、本校の児童も共に楽しめる活動となることもあります。また、交流を通してお互いに寄り添い、相手を想い、理解を深めていくことがもっとも大切な「工夫」になります。